

**第21期（2026年3月期）
決算説明資料**

2026年6月12日



阪神高速道路株式会社

当期連結決算の概要

当社グループの当期の連結業績は、営業収益 **2,570億円**（前年同期比35億円減）、
営業利益 **17億円**（前年同期比4億円減）、経常利益 **20億円**（前年同期比8億円減）、
親会社株主に帰属する当期純利益は **14億円**（前年同期比10億円減）となりました。
事業別の業績等の概要は、次のとおりです。

高速道路事業

- ◆ **料金収入**は1,923億円（前年同期比3.8%増）
※14号松原線（喜連瓜破～三宅間）の通行再開や大阪・関西万博の開催が一因となり通行台数が増加し、前年同期を上回りました。
- ◆ **道路資産完成高**は535億円（前年同期比4.1%減）
- ◆ **道路資産賃借料**は1,405億円（前年同期比3.7%増）
- ◆ **管理費用**は516億円（前年同期比6.8%増）
- ◆ この結果、
営業収益は2,467億円（前年同期比2.0%増）
営業費用は2,458億円（前年同期比2.0%増）
営業利益は9億円（前年同期比6.4%減）
となりました。

受託事業

- ◆ 国や地方公共団体等の委託に基づく道路の新設等の事業を受託したことにより、
営業収益は45億円（前年同期比62.8%減）
営業費用は45億円（前年同期比62.8%減）
- ◆ この結果、**営業損失**は27百万円
（前年同期は営業損失76百万円）となりました。

その他（関連）事業

- ◆ 休憩施設の運営、駐車場施設の運営、道路マネジメント事業、事業者支援コンサルティング事業等を展開したことにより、
営業収益は61億円（前年同期比10.3%減）
営業費用は53億円（前年同期比5.6%減）
- ◆ この結果、**営業利益**は8億円
（前年同期比32.3%減）となりました。

主な増減内容

単位：億円〔単位未満切捨て〕

区 分		2026年3月期	2025年3月期	増減
営業収益	料金収入	1,923	1,853	+69
	道路資産完成高 ^{(注)1}	535	558	▲22
	その他売上	8	7	+0
		2,467	2,419	+47
営業費用	道路資産賃借料	1,405	1,355	+50
	道路資産完成原価 ^{(注)1}	535	571	▲35
	管理費用	516	483	+33
		2,458	2,410	+48
高速道路事業 営業利益 ^{(注)2}		9	9	▲0

(注) 1 道路資産完成高とは、完成した道路資産の高速道路機構への引渡額をいい、道路資産完成原価とは、当該道路資産の建設に要した費用をいいます。

(注) 2 高速道路事業の営業利益には、高速道路事業の利益剰余金を活用した、安全対策やサービス高度化に資する事業に伴う損失が含まれております。

● 営業収益

- ・14号松原線（喜連瓜破～三宅間）の通行再開や大阪・関西万博の開催が一因となり通行台数が増加し、一日当たり約75.3万台（前年同期比3.7%増）

- ・料金収入は1,923億円（前年同期比69億円増）

- ・道路資産完成高は、大規模修繕事業の工事出来高の減等により、前年同期比22億円減の535億円

● 営業費用

- ・協定に基づく道路資産賃借料は、変動貸付料制度による加算等により前年同期比50億円増の1,405億円

- ・管理費用は、前年同期比33億円増の516億円

主な増減内容

単位：億円(単位未満切捨て)

区 分		2026年3月期	2025年3月期	増減
受託事業	営業収益	45	121	▲ 76
	営業費用	45	122	▲ 77
	営業利益 (▲損失)	▲ 0	▲ 0	+0
その他 (事業 関連)	営業収益	61	68	▲ 7
	営業費用	53	56	▲ 3
	営業利益	8	11	▲ 3
関連事業 営業利益		7	11	▲ 3

●受託事業

大阪市道高速道路淀川左岸線に係る工事出来高の減等により、
営業収益は前年同期比76億円減の45億円、
営業費用は前年同期比77億円減の45億円となり、
営業損失は27百万円
(前年同期は営業損失76百万円)

●その他(関連)事業

休憩施設の運営、駐車場施設の運営、
道路マネジメント事業、事業者支援コンサルティング
事業等を展開したことにより、
営業収益は前年同期比7億円減の61億円、
営業費用は前年同期比3億円減の53億円となり、
営業利益は8億円
(前年同期比3億円の減)

当期連結財務諸表の概要

単位：億円〔単位未満切捨て〕

連結貸借対照表

区 分	2026年3月期	2025年3月期	増減
資産の部	2,669	2,983	▲ 313
流動資産	2,125	2,450	▲ 324
(うち仕掛道路資産)	1,333	1,246	+87
固定資産	544	532	+11
負債の部	1,979	2,309	▲ 329
流動負債	378	404	▲ 25
固定負債	1,601	1,905	▲ 303
純資産の部	689	673	+15
株主資本	671	657	+14
資本金	100	100	-
資本剰余金	105	105	-
利益剰余金	465	451	+14
その他の包括利益累計額	18	16	+1

連結損益計算書

区 分	2026年3月期	2025年3月期	増減
営業収益	2,570	2,605	▲ 35
営業費用	2,553	2,584	▲ 31
営業利益	17	21	▲ 4
営業外収益	3	7	▲ 3
営業外費用	0	0	+0
経常利益	20	28	▲ 8
特別利益	0	0	▲ 0
特別損失	1	0	+0
税金等調整前当期純利益	18	27	▲ 8
法人税等	4	3	+1
親会社株主に帰属する 当期純利益	14	24	▲ 10

2027年3月期 連結業績の見通し

単位：億円(単位未満切捨て)

区 分		2027年3月期 見通し	2026年3月期 実績	増減
営業 収益	高速道路事業	3,801	2,467	+1,333
	料金収入	1,921	1,923	▲ 2
	道路資産完成高(注)1	1,879	535	+1,344
	その他売上	0	8	▲ 8
	関連事業	104	106	▲ 2
		3,905	2,570	+1,335
営業 費用	高速道路事業	3,805	2,458	+1,347
	道路資産賃借料	1,415	1,405	+9
	道路資産完成原価(注)1	1,887	535	+1,351
	管理費用	502	516	▲ 13
	関連事業	100	98	+1
		3,905	2,553	+1,352
営(▲ 業 損 失 益)	高速道路事業(注)2	▲ 3	9	▲ 13
	関連事業	4	7	▲ 3
		0	17	▲ 17
経 常 利 益		0	20	▲ 19
税金等調整前当期純利益		0	18	▲ 18
法 人 税 等		4	4	▲ 0
親会社株主に帰属する当期純利益(▲損失)		▲ 3	14	▲ 17

連結業績の見通し

親会社株主に帰属する当期純損失は、親会社の損失9億円に連結子会社の利益等5億円を加えた3億円となる見通しです。

なお、連結業績の見通しのうち、親会社の見通し額は国土交通大臣から認可を受けた令和8年度(2026年度)事業計画に基づいています。

(注) 1 道路資産完成高とは、完成した道路資産の高速道路機構への引渡額をいい、道路資産完成原価とは、当該道路資産の建設に要した費用をいいます。

2 高速道路事業の営業利益(営業損失)には、高速道路事業の利益剰余金を活用した、安全対策やサービス高度化に資する事業等に伴う損失10億円が含まれております。

3 2027年3月期の業績見通しには、不確定な要因を含んでおり、将来の業績等を保証するものではありません。実際の業績等については、様々な要因により変化するものであることをご承知おき下さい。

2027年3月期 個別業績の見通し

単位：億円〔単位未満切捨て〕

個別業績の見通し

区 分		2027年3月期 見通し	2026年3月期 実績	増減
営業 収益	高速道路事業	3,800	2,459	+1,341
	料金収入	1,921	1,923	▲ 2
	道路資産完成高 ^{(注)1}	1,879	535	+1,344
	その他売上	-	0	▲ 0
	関連事業	53	57	▲ 4
		3,854	2,517	+1,336
営業 費用	高速道路事業	3,810	2,460	+1,350
	道路資産賃借料	1,415	1,405	+9
	道路資産完成原価 ^{(注)1}	1,887	535	+1,351
	管理費用	508	518	▲ 9
	関連事業	51	55	▲ 4
		3,861	2,515	+1,346
営業 利 益	高速道路事業 ^{(注)2}	▲ 9	▲ 0	▲ 9
	関連事業	2	2	▲ 0
		▲ 7	1	▲ 9
	経常利益 (▲損失)	▲ 7	43	▲ 51
	税引前当期純利益 (▲損失)	▲ 7	43	▲ 51
	法人税等	1	0	+0
	当期純利益 (▲損失)	▲ 9	42	▲ 51

営業収益は、3,854億円
 （前年実績比1,336億円増）
 営業損失は、7億円
 （前年実績は営業利益1億円）
 当期純損失は、9億円
 （前年実績は当期純利益42億円）
 となる見通しです。

なお、見通し額は国土交通大臣から
 認可を受けた令和8年度（2026年度）
 事業計画に基づいています。

(注) 1 道路資産完成高とは、完成した道路資産の
 高速道路機構への引渡額をいい、
 道路資産完成原価とは、当該道路資産の
 建設に要した費用をいいます。

2 高速道路事業の営業利益（営業損失）には、
 高速道路事業の利益剰余金を活用した、
 安全対策やサービス高度化に資する
 事業等に伴う損失10億円が含まれております。

3 2027年3月期の業績見通しには、
 不確定な要因を含んでおり、将来の
 業績等を保証するものではありません。
 実際の業績等については、様々な
 要因により変化するものであること
 をご承知おき下さい。



阪神高速技術(株)

保全点検・維持修繕

阪神高速道路の点検から補修までを迅速に行い、現場から得られるノウハウを技術開発や品質管理に活用することで、構造物を良好なコンディションで長持ちさせます。

内外構造(株)

道路構造物の保全点検

(株)情報技術

料金収受設備の保全点検・維持修繕
システム開発運用管理

(株)テクノ阪神

機械設備の保全点検・維持修繕

(株)ハイウェイ管制

電気通信設備の保全点検・維持修繕

阪神施設調査(株)

建物の保全点検・維持修繕



阪神高速技研(株)

設計・積算・システム管理

阪神高速道路の技術ノウハウを継続的に蓄積することで、調査設計・積算・情報管理など、各技術分野における阪神高速道路(株)の業務をバックアップします。

(株)阪神eテック

電気通信設備の設計



阪神高速パトロール(株)

交通管理

阪神高速道路上の交通パトロールを行い、事故・故障でお困りのお客さまの安全確保、落下物処理など24時間体制で快適なドライブをサポートします。

阪神高速トール大阪(株) 阪神高速トール神戸(株)

料金収受

阪神高速道路の玄関である料金所において、迅速・正確・丁寧な対応をモットーに、お客さまに気持ちよく阪神高速道路をご利用いただけるように料金収受業務を行います。



阪高プロジェクトサポート(株)

公共事業の用地取得コンサルティング

総合補償コンサルタントとして、公共用地取得をサポートします。

阪神高速サービス(株)

休憩施設および駐車場施設運営など

阪神高速道路の高架下駐車場、パーキングエリアの管理運営、不動産の賃貸、スルーウェイカード事業、産直市場「ナナ・ファーム須磨」の運営など、広い分野でお客さまや社会のニーズに応えるサービスを提供し、グループの企業価値の最大化に貢献しています。



※持分法非適用関連会社

ASIAM Infra Co., Ltd. (エイサイアム・インフラ)

タイ国における公共インフラ等維持管理事業

2025年度の主なトピックス

1. ミッシングリンク解消に向けたネットワーク整備

* ミッシングリンクの解消に向け、淀川左岸線（2期）（海老江JCT～豊崎）、淀川左岸線延伸部、大阪湾岸道路西伸部（六甲アイランド北～駒栄）及び名神湾岸連絡線の整備推進に努めました。

六甲アイランド地区



豊崎地区



駒栄地区



海老江地区

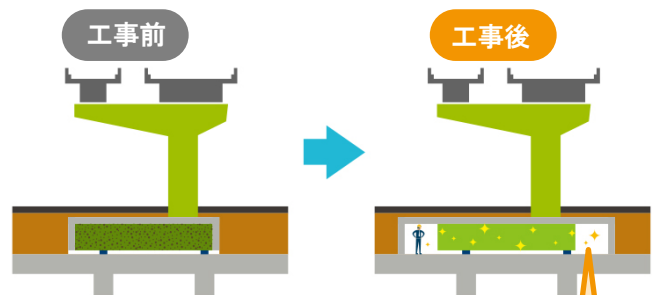


2025年度の主なトピックス

2. 高速道路リニューアルプロジェクトによる長寿命化の推進

* お客さまに最高の安全と安心を提供するため、構造物の長寿命化に向けた高速道路リニューアルプロジェクト（大規模更新・修繕事業）を推進しています。

■15号堺線湊町付近の大規模更新事業

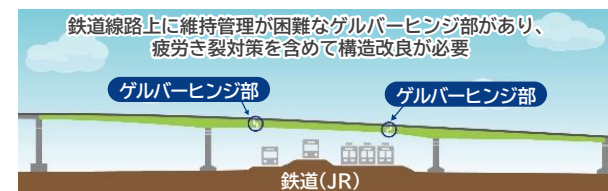


腐食対策、コンクリートボックス設置
(浸水対策、維持管理空間確保)



地下水の影響で腐食が生じている鋼製基礎の防食対策を実施するとともに、新たに維持管理空間の確保と耐震性の向上を図っています。

■11号池田線加島付近の大規模修繕事業



鉄道を跨ぐ連続鋼製橋梁を対象に、橋桁の連続化などを行い、維持管理性・長期耐久性・耐震性の向上を図っています。

2025年度の主なトピックス

4. 関連事業の展開

- * 阪神高速グループにおいてこれまで培ってきた技術・ノウハウを活用し、**周辺の自動車専用道路等の一体的管理、構造物点検、補修業務や海外事業を含む技術・補償コンサルティング事業**を実施しました。
- * 社会のニーズに応えるため、高架下の道路空間等を有効に活用した**駐車場事業**、お客さまサービス向上を目指した**休憩所事業**、保有資産の有効活用をはじめとした**不動産事業等**を展開しました。

〔高速道路の維持管理等の技術・ノウハウを活かした事業展開〕

- 地方自治体の道路橋等の補修工事を受注
- 道路や鉄道など公共インフラの用地取得支援業務を地方自治等から受注

〔周辺の自動車専用道路等の一体的管理受託〕

- 大阪湾咲洲トンネル・夢咲トンネル（大阪市）の管理運営を2009年より継続して受託
- 夢咲トンネル照明のLED化による維持管理コストおよび消費電力の削減、交通管理DX化の提案等を実施

〔休憩所事業の展開〕

- PAにおいて、レストラン・売店を運営。一部の無人PAにおいては、自販機コンビニを設置し、お客さまへ軽食の提供を実施
- 大阪・関西万博に合わせ、インバウンドのお客さまに対応した券売機改善や、機運醸成に寄与する施設内装飾を実施



泉大津PA（陸側）

〔地域連携事業の展開〕

- 沿線自治体と連携し、観光と産業の振興を目的とする周遊キャンペーンやイベントを開催



PAでの地域連携イベント

〔海外事業の展開〕

- アジア、アフリカを中心にJICA等からの国際コンサルティング業務を実施
- タイ国関連会社「ASIAM Infra」において、公共インフラ等の包括的な維持管理業務を展開

〔道路空間や資産の有効活用〕

- 駐車場事業：高架下等の約300箇所でも月極・時間貸駐車場を展開
⇒ 月極駐車場等の空枠をアプリで事前に予約して利用できる
駐車場予約サービス「リザパー」を提供
- 不動産事業：賃貸住宅事業や事業用定期借地等を展開

〔ETC多目的事業の展開〕

- ETCによる「モビリティ認証パッケージ」を活用し、大阪・関西万博のP&R利用料金ダイナミックプライシングを受託。また、阪神高速のETC利用データに応じて駐車場料金を割引する「ETCスマート割」の実証実験を開始

ETCによる「モビリティ認証技術」の仕組み



◆本資料には将来の予測や見通しに関する記述が含まれておりますが、こうした記述は将来の業績等を保証するものではありません。将来の業績等は経営環境の変化などにより、目標と異なる可能性があることにご留意下さい。

【お問い合わせ】



阪神高速道路株式会社 経理部経理課

〒530-0005 大阪市北区中之島3-2-4 中之島フェスティバルタワー・ウエスト

TEL: 06-6203-8888(代)

FAX: 06-6203-8313

URL: <https://www.hanshin-exp.co.jp/company/>